

【写】

3 台 監 第99号

令和4年3月30日

殿

台東区監査委員 元 田 秀 治

同 太 田 龍 彦

同 本 目 さ よ

令和3年度定期監査(事業所、学校等)の結果について(報告)

地方自治法第199条第1項及び第4項の規定に基づき標記監査を実施しましたので、  
この結果を同法第199条第9項の規定により、別紙のとおり報告いたします。

## 1 監査期間

### (1) 事業所

令和3年11月26日(金)～令和4年3月28日(月)

### (2) 小学校、中学校、幼稚園

令和3年11月26日(金)～令和4年3月28日(月)

## 2 監査対象

### (1)事業所

南部区民事務所、台東地区センター、東上野地区センター、上野地区センター、浅草橋地区センター、台東区民会館、台東子ども家庭支援センター、浅草保健相談センター、玉姫保育園、谷中保育園、千束保育園、待乳保育園、根岸図書館、石浜図書館

※なお、新型コロナウイルス感染症予防のため、玉姫保育園、谷中保育園、千束保育園、待乳保育園、根岸図書館、石浜図書館は予備監査・委員監査を実施せず、南部区民事務所、台東地区センター、台東区民会館、台東子ども家庭支援センターについては、委員監査を実施しなかった。

### (2)小学校、中学校、幼稚園

平成小学校、東泉小学校、谷中小学校、黒門小学校、浅草小学校、蔵前小学校、田原小学校、御徒町台東中学校、忍岡中学校、竹町幼稚園、台桜幼稚園、田原幼稚園

## 3 監査の範囲

主として令和3年度にかかる財務における事務の執行状況及び施設の管理運営が、法令等に基づいて適正かつ効率的に行われているかどうかを主眼として実施した。

## 4 監査の方法

監査委員は、関係部課長、事業所長、学校長、園長から、事務事業の運営状況及び予算の執行状況等の説明を聴取し質疑応答を行い、監査を実施した。

また、事務局職員は監査委員の命を受け、監査対象事業所・学校等から関係書類及び帳簿等の提出を求め、調査及び事情聴取等の予備監査を行い、その結果を監査委員に報告した。

予備監査における主な確認書類

(1)職員服務関係書類(出勤簿、休暇簿、超過勤務等命令簿、各種届出書等)

(2)旅費執行関係書類(旅行命令簿兼旅費請求内訳書、出張復命書等)

(3)経理関係書類(契約締結請求書、請書、各種整理簿、金券受払簿等)

- (4)収入関係書類(施設使用許可・使用料減額免除申請書、収納金関係書類等)
- (5)施設・備品管理関係書類(施設保守点検報告書、供用備品現在高一覧表等)

## 5 監査の結果

提出された関係書類等を基に、事務事業の執行状況や施設の管理運営等について監査したところ、おおむね良好に行われており、特に、指摘・指示を要する事項はない。ただし、軽微ではあるが次のような口頭注意事項があったため、今後の適正な事務処理等に留意されたい。

### <事業所>

#### (1)口頭にて注意した事項

##### ①旅行命令簿の旅行時間について

旅費の手引きでは、「旅行時間は、出発時刻、帰庁時刻を記載する。直行直帰の場合は自宅からの出発時刻及び帰宅時刻を記載する」とされている。

今回、旅行時間の帰宅時刻で、勤務時間内に直帰している事例が見受けられた。事情聴取をしたところ、会議の終了時間を誤って記載したということであった。

旅行命令簿については、適正な事務処理に留意されたい。

##### ②その他、口頭にて注意した主なもの

- ・収入日計表、簿記の記帳漏れ

### <学校等>

#### (1)口頭にて注意した事項

##### ① 職務専念義務免除申請について

台東区学校職員服務取扱規程第8条により、職務専念義務免除の承認を受けようとする者は、休暇・職免等処理簿により承認権者に申請しなければならない。しかしながら、休暇・職免等処理簿の職免適用基準及び職免の申請理由が記入されていない事例が一部の学校等において見受けられた。

##### ② その他、口頭にて注意した主なもの

- ・サービス関係書類の記入もれ、表示もれ、押印もれ
- ・見積書及び納品書の不備
- ・屋上雨水排水ドレンのつまり
- ・防火シャッターの障害物感知装置・非常照明・誘導灯のバッテリー劣化

## 6 監査委員との主な質疑応答

### (1)事業所

監査対象事業所	浅草保健相談センター
監査実施日	令和4年1月7日(金)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:事業所)	
Q	センターの事業で、処務規程にある「健康危機管理における諸活動に関すること」とは、どのようなものを想定しているのか。
A	新型コロナウイルス対応も含め、感染症への対応を一番に想定している。感染症については、保健予防課と連携していて、センターの保健師が応援に行く体制を直ちに組めるようにしている。また、災害時の健康危機管理も想定している。
Q	乳児家庭全戸訪問で、拒絶する方はいるのか。
A	里帰りや入院中など様々な理由で拒絶する方もいるが、詳しく話を伺って、乳児にとって危険な状態ではないかも含めて、なるべく自宅を見せていただけるよう努力している。今回は、新型コロナウイルスの感染が怖いという拒絶もあり、予算の執行は例年度より低い。
Q	おやこサポート・ネットワークの現在の状況について。
A	3～4カ月児健診時の交流支援は1団体、育児相談時の交流支援は3団体の計4団体で行っている。関係機関とのネットワーク会議は、この4団体と区内の主な産後ケアを委託している医療機関とがネットワークを構築して行っている。
Q	乳児期の保護者等の交流支援で従事者に対する研修はどのようなものか。
A	講師による親子の触れ合い遊びの意義、親の乳児に対する関わり方と支援する必要性についての講義を行ったり、グループワークを通して困っていることや疑問点を挙げて一緒に考えていくという内容で研修会を行っている。
Q	ゆりかご・たいとう事業での支出額およそ5600万円の主な内訳は。
A	育児パッケージの費用で、面接を実施した妊婦に給付したこども商品券1万円分、新型コロナウイルス感染予防対策として追加支給したこども商品券1万円分の購入費である。
Q	産前産後支援ヘルパーは、いつから利用できるのか。
A	産前1カ月、産後1年、家事・育児支援のヘルパーが利用できる。東京都の補助事業を使って、7月から事業を拡充した結果、利用者も増えた。

監査対象事業所	東上野地区センター、上野地区センター、浅草橋地区センター
監査実施日	令和4年1月20日(木)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:事業所)	
Q	東上野地区センターのインターネット環境はどうなっているのか。
A	東上野地区センターは避難所として指定されており、避難者のため1階のホール周辺にwifi環境を作っている。来年度、区民館の集会施設にポケット型のwifi環境の設置を予定している。
Q	コロナ禍の中、上野地区センターのトレーニングルームの運用は。
A	トレーナーがいる時間で、密のコントロールができる人数で運用している。時間も1時間で入れ替えをし、清掃消毒をして次の利用につなげる。
Q	浅草橋地区は、マンションが増え、若い世帯が増えていることで、全体の人口は毎年増加する一方、65歳以上の人口は減っているが、今後も同じような傾向が続いていくと考えるか。
A	地区全体的にマンションの建設が進んでいるので、マンション居住者は増えていくと考えられる。台東区の南部地域が特にマンション建設が進んでいると思われる。
Q	各地区の再開発や街づくりについて、各センター長は、どのように把握しているのか。
A	再開発や街づくりについては、区の担当課から説明があり、センター長を通して町会等には情報提供している。
Q	各地区センターは、町会の仕事が大きく占めているようだが、体制はどうなっているのか。また、町会に加入していない区民への対応は。
A	区としては、町会は貴重なパートナーと考えており、地区センターの所長・副所長が主として町会対応をしている。町会未加入の区民には、町会活動がどのようなものかを知ってもらうことが必要であり、町会からの情報発信の工夫も必要かもしれない。区としては、町会活動の活性化について考えていきたい。
監査委員意見	
町会への加入率を上げていくことと町会未加入者への対応のどちらも考えていくことが必要ではないか。その兼ね合いをどうするか、議論する余地もあるのではないかと。また、ITを活用することで、町会活動に参加しやすくなる可能性もあると考える。	

(2) 小学校・中学校・幼稚園

監査対象校(園)	東泉小学校
監査実施日	令和4年1月13日(木)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長)	
Q	オーケストラ活動が始まったきっかけは
A	台東区の音楽教諭のレベルが都内でも高かったこと、金管バンドやジュニアオーケストラなどがあったことが考えられる。
Q	東泉スタイルとは、どのようなものか。
A	「良い子のきまり」として、生活や学習の決め事で、児童向けと教員向けがあり、各教室に掲示してある。
Q	生徒のどれくらいの人数がオーケストラに入っているのか。
A	298人中100人が加入している。4.5.6年生の希望者は、テストなしに入れることになっている。
Q	校長の仕事として一番大切に思うことは何か。
A	定期的に主任教諭と授業を見ながら、年間計画の見直しを行うなど、教員の授業力アップを図っていきたい。また、教材教育の仕方などを教えていかなければならないと感じている。
Q	魅力ある教育活動や特色ある教育活動は必要と思うか。
A	学校ごとに目標を出し、教育委員会全体でバックアップするもので、区全体の教育の魅力アップにつながるものと考えている。
監査委員意見・要望	
・共稼ぎ家庭が多いため、紙だけでなくタブレットでプリント配信ができるように考えて欲しい。	

監査対象校(園)	谷中小学校、台桜幼稚園
監査実施日	令和4年1月17日(月)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長、園長(校長兼務))	
谷中小学校	
Q	食育指導の充実とは、どのようなことか。
A	世界の料理を実演したりして、食を通じてグローバルな知見を深めるもので、直近では、マレーシアのチキンライスが給食に出た。
Q	タブレット端末のハイブリッド利用は行っているか。
A	できる状態であるが、現在はやっておらず、学校での利用を基本としている。メディアリテラシーが不十分なため、指導が必要な状態である。
Q	学力の向上における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とはどのようなことか。
A	5～6年生にならないと難しいが、自らやりたいと思うこと、他者と対話して進めることができることなどを内容とする。
Q	運営方針に基づき、今後どのように学校経営を進めたいと思っているか。
A	児童・親・地域に加え、教員がやりがいを持てる学校としていきたい。
Q	司書には、どのようなことを依頼しているか。
A	オープンな図書コーナーであるので、主に授業支援になる内容を管理職を通じて会社に依頼している。
台桜幼稚園	
Q	3歳児が3名しかいない理由はなんだと思うか。
A	共稼ぎが増えたこと、保育園の無償化などにより、保育園の需要が増えたためと考えられる。
Q	預かり保育を試行しているが、共稼ぎで保護者の参加が無理になることも考えられるのではないか。
A	保護者も協力的で、年度当初に年間予定表を配って、月に1～2回の活動を予定している。みんな一緒になくとも、親子での活動は可能である。
Q	きめ細かく指導するため、園としての要望はあるか。
A	門をオートロックにしてほしい。エアコンが不調なので、改修が必要。

監査対象校(園)	忍岡中学校
監査実施日	令和4年1月17日(月)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長)	
Q	学校単位で判断できる校則を変更した内容はどのようなものか。
A	業者が作らなくなったこともあり、布の斜め掛けカバンなどの使用を健康面、安全面を考慮して変更を検討している。現在は、コロナ禍のため、水筒の持参もあるため、リュックの使用を推奨している。髪型などの変更に当たっては、生徒会も入って検討した。
Q	女子の制服のスラックスの導入は。
A	新しい制服が決まるまでに、検討をすすめる。
Q	公平な物の見方についてどのように指導しているのか。
A	何々すべきではなく、これでよいのだろうか自分事として考える習慣を身に着けさせることが重要と考え、指導している。
Q	忍寺子屋はどのような内容か。
A	今年度から本格的に実施したものである。家では勉強しにくい生徒もいるため学力向上推進ティーチャーの指導の下で、自主的に勉強できる場を校内で提供している。
Q	タブレットはコロナ休校時に使えないか。
A	黒板を使った普段通りの授業の様子を流せるよう検討中である。そのために、画像も音声も拾えるカメラなどを購入した。
Q	今後どのような方向性を考えているのか。
A	休校になっても、タブレット端末を活用し、安心して学べる環境を整備した学校を目指したい。
Q	耐寒訓練とはどのようなものか。
A	1年生から、ジョギング、剣道、柔道から自分が一週間行うものを選び参加する。その記録を3年間共通の記録カードに記録し、自分の成長を確認できたのだが、現在はコロナ禍のため、これまでの形では実施できていない。



監査対象校(園)	平成小学校、竹町幼稚園
監査実施日	令和4年1月19日(水)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長、園長)	
平成小学校	
Q	学力調査の内容は。
A	5、6年生は、都や全国の学力テストがあるが、1～4年生はないため、学力の定着度が測れなかった。そのために4年生も、1学期の早い段階で学力テストを実施し、授業の改善につなげている。また、「東京ベーシックドリル」を使って、年6回診断テストを実施し、つまづいている点を把握した上で個別に取り組んだり、学力向上推進ティーチャーや学習ボランティア、担任が対応する放課後学習に活かしている。
Q	いじめの未然防止対策は。
A	全教員ですべての児童を見守り、子どもだけの時間や場所をつくらないように心掛けている。保護者が子供の様子で気になる時は、些細な事でもためらわずにすぐに学校に連絡するよう、学校だより等で呼びかけている。
Q	校務改善は進んでいるか。
A	会議時間がもったいなので、会議自体を減らし、各分掌事務は二人で運用する形態をとっている。学校からの通知も、各学級の情報を持ち寄り作成する「学校だより」に一本化している。
Q	ユニバーサル・デザインの授業とは。
A	元々、特別支援学級で行っていたもので、ホワイトボードに各時間ごとの授業の流れや、何をやるかを示しながら授業をすることで、変化に弱い生徒が対応しやすいので、全校で行っている。教師にとっても、計画的な授業を行う上で役にたっている。
Q	単学級のデメリットはどのように考えているのか。
A	子供にとって人間関係が固定化し、気持ちの切り替えができない場合がある。ただし、子供同士で、折り合いをつけるなど、大人の対応もとれるようになる。
竹町幼稚園	
Q	外国籍の児童対応の苦労は。
A	Line の「勝手に翻訳」を使っており、母親同士はつながりを持っている。また、スマチの自動翻訳機能を使うと紙媒体より理解してもらえる。ただ、食文化が多様なので、安全性を配慮し、対応できることは、受け入れている。今年は、保護者会もオンラインで実施した。
Q	幼稚園の教員間の情報共有はどの様におこなっているか。
A	預かり保育を行っており、週3回しか全員がそろわないことから、書類を減らし、パソコンを使った情報共有を進めている。また、会議は一時間半以内で行い、6時には退勤できるようにしている。

監査対象校(園)	蔵前小学校
監査実施日	令和4年1月19日(水)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長)	
Q	マンションの増加で、今後も児童数が増えると予想するが。
A	しばらくは増加傾向が続くと思われる。次年度は、特別支援のひまわり学級の希望も増えている。
Q	オリジナルランドセルを導入した背景は。
A	タブレットを入れたとき、机が狭くなることから、机の側面につけられるタブレットバックを PTA と共同で作製し、購入してもらった。ランドセルについては、PTA の意見もあり、一年間の検討の後、推奨という形で導入を決めた。
Q	休校中のリモート学習のやり方は。
A	令和3年11月から、持ち帰りの訓練を実施し、E ライブラリー等で活用している。スママチで学習課題を配信しているほか、タブレットを利用して、保護者会の録画を視聴できるようにした。
Q	蔵前スタンダードはどのように作り上げたのか。
A	生活指導部で検討して教員が意見を集約して作り上げた。生活指導や授業の柱となるものがあることが心強い。コロナ以前は、見学に来るひとも多かった。
Q	大規模校ならではの心構えはあるか。
A	学校は組織体であり、副校長のフットワーク、キーマンとなる教員が重要である。安定した学校経営を継続するために、業務や役割のローテーションを作ることも必要である。
Q	ひまわり学級が多い理由は。
A	地域の学校で、通常学級の児童とのふれあいを希望する保護者が多い。ひまわり学級には、重度の児童もいるが、学年が進むにつれて、学習や生活面での改善や成長が見られる。保護者には、概ね信頼してもらっている。
Q	先生の管理上の工夫はあるか。
A	児童の発達段階に応じた生活と学習ができるように、教員には職層と分掌に応じた仕事をしてもらっている。小学校の教員免許は全科であるが、個々には特に、専門性を持った科目を自信をもって授業が行えることが目標である。

監査対象校(園)	田原小学校、田原幼稚園
監査実施日	令和4年1月26日(水)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長、園長(校長兼務))	
田原小学校	
Q	学校の特色であるバンド・フラッグ隊と英語活動について。
A	バンドやフラッグは新しい音楽教師になって、活動時間が減っている。英語は研究協力校になっており、担任が中心となって「田原スタンダード」として場所を設定し、話す英語を中心に学んでいる。オンラインで大学生とつないで、授業を行っているが、コロナ禍で町に出て外国人にインタビューすることができなくなった。
Q	タブレットの利用方法は。
A	道徳の授業で事例を映し出し、説明後に、自分の考えを答えるなど、色々な活用方法がある。どこでもできる授業など、学び方も大きく変わるし、保護者会等のやり方も変化する。ただ、故障が多い点や充電の仕方など、何を実際に行う必要があるのか共通認識を持つ必要がある。
Q	タブレットを持ち帰るときの決め事は。
A	ゲームに使われえないなどのマイナス面だけでなく、プラスになる活用を進め、前向きな約束事にしていきたい。
Q	校則については時代にあわせる必要があるのでは。
A	校則は生活指導部会だけでなく、全体で話し合って決める必要がある。子供たちが生活しやすいように、柔軟に考える必要があると思っている。
Q	人権教育の一環として「女子生徒の生理」についてどう考えるか。
A	養護教員が一番知識を有していることから、風通しを良くする必要がある。また、男性教員に知識がないことから、指導が必要と考えている。
田原幼稚園	
Q	預かり保育の実施により、働く親が増える傾向にあり、保護者の協力を得るためにPTAの会議も最小限にする必要があるのでは。
A	考えていく必要がある。初年度から一緒に考えていきたい。
Q	そのためにも幼稚園のオンライン化が必要では。
A	短時間でも、親と子がつながることは必要と考えている。
Q	コロナ禍で自然体験活動はできたのか。
A	芋ほりは実施できたが、食べる体験はできなかった。園庭でも様々な植物を育てている。運動会や餅つきも感染防止を徹底し実施した。

監査対象校(園)	黒門小学校
監査実施日	令和4年1月26日(水)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長)	
Q	児童数は増えているが、どのように調整しているのか。
A	教室が増やせない状況なので学級数は増やせない。また教室が狭い上にタブレット端末保管庫や大型モニターも設置されているので、コロナ禍でも児童同士の間隔が取れない。最大人数は1クラス30人程度が適当だと考える。
Q	学びに向かう力を育む10の手立てとは。
A	児童になぜなんだろうと思わせる、ひきつける授業の導入、意見が割れるような揺さぶりのある問いかけなどであり、授業を組み立てる時の視点にもなるものである。
Q	教員の労働時間はどうなっているか。
A	80時間を超えた教員は2人いた。土日に出勤する教員や朝早く夜も遅い教員もいる。そのため、休憩時間に掛かる会議は入れない、会議は四時半までに終わるように、資料を事前に読み込み開催時間を短くするなど、努力している。
Q	入学に際しての選考基準はどうなっているのか。
A	兄弟関係や仕事の都合など、学務課の基準に沿って決められている。面接や能力で落とすことはしていない。
Q	校長として改善したい点は。
A	本校に長く勤務した教職員の異動が続き、コロナ禍の最中に転入した教職員はこれまでの地域との協力や行事などを知らない。黒門のよき伝統と豊かな教育力の維持向上を今後も図っていきたい。
Q	プリントのオンライン化は行っているか。
A	スママチで出来るものは行っているが、学校だよりなど子供に指導しながら配布するため紙も併用している。
Q	コロナ禍で中止した行事は。
A	学芸会は準備に時間がかかるため早期に中止を決定した。運動会は学年ごとに実施した。霧ヶ峰学園の宿泊は区内では本校の5年生のみ実施できた。6年生は3月に予定している。
Q	チーム黒門の育ての会や地域団体の活動内容は。
A	うえの夏祭りパレードのさんさ踊りでの参加や、盆踊りやバザーへの協力などで児童は学校を支える多くの方々にふれあっている。特にさんさ踊りは卒業生や育ての会が指導等深くかかわっていただいている。

監査対象校(園)	浅草小学校
監査実施日	令和4年1月27日(木)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長)	
Q	校舎の老朽化に伴い、区に要望はあるか。
A	校庭改修を次年度にお願いしている。他は大規模改修時にお願いしたい。
Q	不登校生徒への対応は。
A	定期的に学校に来てもらいスクールカウンセラーとの対話、親と一緒に話あうなどの対応をしている。
Q	学力向上の言語能力の育成とは。
A	「聞く、話す、書く、対話する」の基本のほか、表現力を付けるためのプレゼン力の向上を図っている。
Q	コロナ禍で校外活動はおこなったか。
A	コロナ禍でもやれることはやる方針。6年生は日光、5年生は秋川溪谷でのバーベキュー、4年生は水上バス乗船、高尾山などの校外活動を行った。1、2、3年生もそれぞれ遠足に行った。
Q	休校中にタブレットを使った授業配信はやっているか。
A	令和3年9月から希望制で、親と毎朝連絡を取って実施する時間等を決めている。配信のために、タッチペンとイヤホン全員分、マイクを学級数分購入した。タブレットの持ち運びバックは個人で購入してもらった。
Q	学校日より等はスママチでの配信を行っているか。
A	スママチの既読率が思ったより低く、アンケートの回収率も下がることを踏まえ、緊急性のあるものはスママチで、手に取りじっくり目を通してほしいものは紙で行っている。
Q	人権尊重校としての活動は。
A	多文化共生の講師を招いての講演を実施。各学年で科目を決め、子供たちがこれからの時代をどう生きるかという視点を授業に加えている。
Q	今後の学校経営の方向性は。
A	子供が多様化して、格差が広がっている。これを理解し、対応できる教員が求められている

監査対象校(園)	御徒町台東中学校
監査実施日	令和4年1月27日(木)
主な質疑応答 (Q:監査委員 A:校長)	
Q	キャリア教育の研究協力校としての取り組みは。
A	こころざし教育の一環として実施している「立志のつどい」は、子供の将来を考える良い機会になっている。
Q	キャリア教育は進学後もつながりを持つことになるのか。
A	そのために、キャリアパスポートのファイルがあり、アスリートや有名人の講演や体験をもとにした記述を入れながら、次に引き継いでいくものとしている。生徒も見ること、今後の流れがわかり、自分の変化を意識できる。3年生の進路面接では、自分の体験に基づき、自分の成長を語れることが目標になる。
Q	ボランティア活動の充実とは。
A	これまでの活動を継続しながら、今後、上野ハーフマラソン、こども祭り、エコフェスタなどに積極的に参加したい。
Q	リモート授業の苦労や課題は。
A	ICTに慣れている教員ばかりではない中、若い教員がマニュアルを作成し、学年を超えて協力した。9月の休校時に全学年でリモート授業を実施できた。2月から定点で映す授業も実施したが、音声が届かなくなったりすること、ダウンロードができない生徒もいることなどの課題がある。
Q	プリント類の配り方はどの様にしているか。
A	「学校だより」は紙とホームページで公開している。コロナ情報等の緊急性の高いものはスママチで配信している。
Q	外国人の生徒が多くて苦労する点は。
A	外国籍の生徒の中には言葉が分からず、ノートも取れていない生徒もいる。日本語指導員も数年たつと付かなくなり、十分な対応がとれず苦悩している。ただ、3年生の進路面談時までには、何とか理解できるようになっている。
監査委員意見	
・スママチは外国籍の子供も翻訳機能を使えるので、積極的に利用して欲しい。	

## 7 まとめ

### (1)事業所

新型コロナウイルス オミクロン株の急拡大により、感染拡大のリスクが高まったため、今年度の事業所監査については、令和4年2月に実施予定であった保育園等一部の監査を中止し、規模を縮小して実施した。

各事業所においては、コロナ禍の中、まん延防止のために中止した事業もあったが、利用者の安全確保を第一に考えながら、できる限り、その設置目的に沿って、様々な区民利用に応じていた。また、施設の利用者や地域団体等との連携、交流に努めるなどの取り組みがなされていた。

今後とも、多様化・複雑化する区民ニーズや環境の変化に適切かつ迅速に対応し、区民福祉の向上を図るため、事業内容の見直しや事務改善の取り組みを推進されたい。

### (2)小学校、中学校、幼稚園

各学校においては、教育目標と経営方針に基づき、基礎学力と体力の向上や心の教育をはじめとした様々な課題に取り組み、教育内容の充実に努めている。特に東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、各校において、オリンピック・パラリンピック教育の推進に積極的に取り組んでいる。また、ICT教育の推進を目指し、タブレット端末の全校生配布、ネットワーク環境の整備を進めたことで、コロナ禍における休校時の授業の補完、情報提供に活用できた。さらなる ICT 機器の積極的な活用を望むものである。

また、校長等管理職は、各教職員の勤務時間を適切に把握し、長時間労働にならないように努めると同時に、働き方改革についても教育委員会とともにすすめていくことをお願いしたい。

施設面においては、「台東区公共施設保全計画」に基づき、改築工事、大規模改修工事が順次行われているが、コロナ禍の影響により、計画がずれ込んでいる工事もみられた。なお、消防設備・避難設備等の老朽化については、計画前であっても、安全重視の観点から配慮していただきたい。

今後とも、家庭や地域等との連携を図りながら、台東区の子どもたちが生涯にわたり学び続ける意欲とこれからの社会を生き抜く力を身に付けられるよう、教育環境の充実に向け全力で取り組まれていくことを望むものである。